

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

(またやまおがむむ『むなしさ』の味わい方)による

問一 傍線部 a～h のカタカナは漢字に、漢字は読みをカタカナに、それぞれ改めよ。

問二 空欄 A～D に入れるのに最適な語を、次のア～キから選び、記号で答えよ。ただし、それぞれの記号は一度のみ用いることができる。

ア あるいは イ ところが ウ したがって エ むしろ オ つまり カ では キ たとえば

問三 傍線部①について、「二つの種類」の「むなしさ」とはどのようなものか。本文に即して、それぞれ三〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問四 傍線部②について、二つの「むなしさ」は、どのように「連動」するのか。本文に即して九〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問五 傍線部③「言葉のむなしさ」とあるが、筆者が、二つの「むなしさ」の連動において、「言葉」に注目しているのはなぜか。本文に即して七〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問六 傍線部④「むなしさ」をめぐる現代社会の状況」とあるが、それはどのような状況か。本文に即して一〇〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問七 次のア～オの記述のうち、本文の内容に合致するものをすべて選び、記号で答えよ。

- ア 楽しいことが終わってしまったときに感じられる「祭りの後」の「むなしさ」は、「対象喪失」の一例といえる。
- イ フロイトは、「自己の喪失」に比べ、自己の外部の物や人を失う「対象喪失」は深刻ではないと指摘している。
- ウ 相手に対する一体感が強まる相思相愛の関係は、自己の外部にある存在が大切に大きい状態といえる。
- エ 「おもしろい」という言葉は、もともと目の前の相手が笑顔になる状況を指し、自分と相手の関係性を含んでいる。
- オ SNSにおいても「表意文字」の比重を増やしていくことで、無意味な「表音文字」の氾濫を避けることができる。

次の文章は、「増鏡」の一節である。鎌倉幕府討伐に失敗した後醍醐天皇は隠岐島（現在の島根県）へと流される。また天皇の側近たちも次々と処罰されることになった。これを読んで、後の問に答えよ。

源中納言具行も、同じころ東へ率て行く。あまたの中に、とりわきて重かるべく聞こゆるは、さま異なる罪に当たるべきにやあらむ。

(ア) 中納言は、ものもがなやと、悔しきことのみぞ、そこには千々にくだくめれど、女々しう人に見えじと思ひ返しつつ、つれなしづくりて、思ひ入れぬさまなり。去年の冬ごろ、あまた聞こえし歌の中に、

(A)ながらへて身はいたづらにはつ霜の置くかた知らぬ世にもふるかな

今ははやいかになりぬるうき身ぞと同じ世にだにとふ人もなし

佐々木の佐渡の判官入道伴ひてぞ下りける。逢坂の関にて、

帰るべき時しなればこれやこの行くを限りの逢坂の関

柏原といふ所にしばしやすらひて、あづかりの入道、まづ東へ人を遣はしたる返事待つなるべし。そのほど、物語など情けしうち言ひかはして、「何ごともさるべき前の世の報いにはべるべし。御身一つにしもあらぬ乱れは、ましてかひなきわざにこそ。かくたけき家に生まれて、弓矢執るわざにかかづらひはべるのみ、うきものにはべりける」など、まほならねど、ほのめかすに、心得はてられぬ。

隠岐の御送りも仕うまつりしものなれば、御道すがらのことなど語り出でて、「かたじけなう、いみじうもはべりしかな。まして、朝夕近う仕うまつりなれたまひけむ御心ども、さながらなむ推し量り聞こえさせはべりき。何事も昔に及び、めでたうおはしましたし御ことにて、世下り時衰へぬる末には、あまりたる御ありさまにや、かくもおはしますらむとさへ、せめては思ひたまへ寄らるる」など、おほかたの世につけても、げにとおほゆる節々加へて、のどやかにて、酒など、所につけてことそぎ、粗々しけれど、さるかたにしなして、よきほどにて下しつ。

東よりの使、帰り来たる気色しるけれど、ことさらに言ひ出ることもなし。いかならむと胸うちつぶれておほゆるも、かつはいと心弱しかし、いづくの島守となれらむもあぢきなく、誰も千歳の松ならぬ世に、なかなか心づくしこそまさらめ、つひに逃るまじき道は、とてもかくても同じこと、^(イ)その際の心乱れなくだにあらば、涼しきかたにも赴きなむ、と思ふ心は心として、都の方も恋しうあはれに、さすがなることぞ多かりける。

よろづにつけて、事の気色を見るに、行く末遠くはあるまじかんめり、と悟りぬ。あづかりがほのめかししも、情けありて思ひ知らずれば、同じうはと思ひて、またの日、「^(カ)頭おろさむとなむ思ふ」と言へば、「いとあはれなることにこそ。東の聞こえやいかがと思ひたまふれど、何でふことかは」とて許しつ。かく言ふは六月の十九日なり。かのことは今日なんめり、と気色見知りぬ。思ひまうけながらも、なほためしなかりける報いのほど、いかが浅くはおほえむ。

(B)消えかかる露の命の果ては見つさてもあづまの末ぞゆかしき

なほも思ふ心のあるなんめり、とにくき口つきなりかし。その日の暮れつ方、つひにそこにて失はれにけり。今はの際も、さこそ心の中はありけめど、いたく人わろうもなく、あるべきことと思へるさまになむ見えける。

(一部省略した部分がある)

【注】○ものにもがなや——「とりかへすものにもがなや世の中をありしながらのわが身と思はむ」(『源氏物語』の古注釈に

引かれる古歌)による。○逢坂の関——現在の滋賀県大津市にあつた関所。

○帰るべき逢坂の関——「これやこの行くも帰るも別れつつ知るも知らぬも逢坂の関」(後撰集・雑一・蟬丸)を踏まえる。○柏原——現在の滋賀県米原市東部の地名。入道の領地。

○あづかり——具行の身柄を引き受けること。

問一 波線部「当たるべきにやあらむ」を品詞分解し、文法的に説明せよ。

問二 傍線部(ア)～(ウ)を、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。

問三 和歌(A)「ながらへて～世にもふるかな」を、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。

問四 二重傍線部は和歌(B)についての批評である。この歌のどのような点が「にくき口つき」なのか、説明せよ。

問五 次の文章は、歴史物語について説明したものである。空欄(a)～(c)に入る作品名を漢字で記せ。

平安時代になると、歴史上の事件や人物を描いた、歴史物語が登場する。藤原道長を中心に藤原氏の権勢を語る (a) や (b) が書かれた。二人の老人の昔語りという体裁で、紀伝体によって歴史を語る (b) は、鏡物と呼ばれる一連の歴史物語の元祖であり、これを継承する作品に、『今鏡』、(c)、そして『増鏡』がある。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし設問との関係で送り仮名を省いた部分がある。

磁州故産磁器。有孫某者、仿古哥定汝諸窯之式造之。

既成、択其佳者、埋地中。踰兩年取出、市於京師・保定諸貴

人家。見者莫不以為真也。由此獲利十倍。州中醫煙草者、楊

氏最著名。他肆昂甚。貿易者常盈肆外。肆中物不能

給、則取他肆之物、印以楊氏之号而昇之。人咸以為美、雖

出重價不惜也。由是言之、人之所貴者名而已。非有能知其

實者也。乃世之學者、聞其為經、輒不敢復議、名之為聖人之

言、遂不敢有所可否。即有一二疑之者、亦不過曲為之說而已。

是貴人之買磁器而市買之販煙草也。故余謂、讀經、不必以

經之故浮尊之上、而但當求聖人之意。果知聖人之文之高且美、

則偽者自不能乱真。嗟夫、嗟夫、此固未易為人道也。

語釈 ○磁州——地名。 ○哥・定・汝諸窯——名品を生産した磁器の製造元。 ○京師——首都。

○保定——地名。 ○肆——店。 ○貿易——物品を売買する。 ○経——儒教の経典。

○浮尊——軽々しく尊ぶ。

(崔述「考信録提要」による)

問一 波線部 a「雖」、b「輒」、c「敢」の読みを、それぞれひらがなで記せ。

問二 傍線部 1「孫某」は何をしたのか、説明せよ。

問三 傍線部 2「莫不以為真也」を、書き下し文にせよ。

問四 傍線部 3「楊氏」は何をしたのか、説明せよ。

問五 傍線部 4「人之所貴者名而已。非有能知其実者上也」を、現代語訳せよ。

問六 傍線部 5「果知聖人之文之高且美、則偽者自不能乱真」を、現代語訳せよ。

問七 この文章の主張を、一五〇字以内で記せ(句読点も字数に含める)。